

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																
山脇美術専門学校	昭和51年6月1日	落合 三喜	〒 102-0074 (住所) 東京都千代田区九段南4-8-21 (電話) 03-3264-4020																																
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																
学校法人山脇服飾美術学院	昭和22年11月17日	清水 カツ子	〒 102-074 (住所) 東京都千代田区九段南4-8-21 (電話) 03-3264-4020																																
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																														
文化・教養	美術専門学校	ジュエリーデザイン科	平成29(2017)年度	-	令和5(2023)年度																														
学科の目的	ジュエリーデザイナーやクラフトマンなどジュエリーデザイン分野に従事しようとする者に、企業等と連携の上で専門性の高い知識及び技術・技能を修得させるとともに感性豊かな即戦力を育み社会に貢献出来る人材を輩出する事を目的とする。																																		
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	伝統彫金からハイジュエリー製作まで幅広く学修し、ジュエリーコディネーター検定、貴金属装身具製作技能検定の取得を目指とし、ジュエリー製作のクラフトマン、ジュエリーデザイナーとしての就職を目指す。																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																												
3年	昼間	※単位時間、単位いざれかに記入 3,150 単位時間 ○○ 単位	222 単位時間 ○○ 单位	336 単位時間 ○○ 单位	180 単位時間 ○○ 单位	0 単位時間 ○○ 单位	2,412 単位時間 ○○ 单位																												
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率																															
45人	32人	1人	3%	0%																															
就職等の状況	<p>■卒業者数(C) : 13 人 ■就職希望者数(D) : 13 人 ■就職者数(E) : 13 人 ■地元就職者数(F) 13 人 ■就職率(E/D) 100 % ■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) 92 % ■卒業者に占める就職者の割合(E/C) 100 % ■進学者数 0 人 ■その他</p> <p>求職活動中の者5名。卒業生のうち1名は非正規雇用(アルバイト)</p> <p>(令和 6 年度卒業者に関する令和7年10月14日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等</p> <p>(令和6年度卒業生) ジュエリーブランド企業、ジュエリー製作工房他。<input checked="" type="checkbox"/></p>																																		
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: ○○○○ 受審年月: ○年○月 評価結果を掲載したホームページURL ○○○○</p>																																		
当該学科のホームページURL	https://yamawaki.ac.jp/introduction/visual/																																		
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいざれかに記入)	<p>(A : 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>3,150 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>84 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>168 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>2,814 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>84 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>168 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B : 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総単位数</td><td>○○ 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>○○ 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>○○ 单位</td></tr> <tr><td>うち必修単位数</td><td>○○ 单位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>○○ 单位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>○○ 单位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>○○ 单位</td></tr> </table>							総授業時数	3,150 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	84 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	168 単位時間	うち必修授業時数	2,814 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	84 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	168 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総単位数	○○ 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	○○ 単位	うち企業等と連携した演習の単位数	○○ 单位	うち必修単位数	○○ 单位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	○○ 单位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	○○ 单位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	○○ 单位
総授業時数	3,150 単位時間																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	84 単位時間																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	168 単位時間																																		
うち必修授業時数	2,814 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	84 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	168 単位時間																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																		
総単位数	○○ 単位																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	○○ 単位																																		
うち企業等と連携した演習の単位数	○○ 单位																																		
うち必修単位数	○○ 单位																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	○○ 单位																																		
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	○○ 单位																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	○○ 单位																																		
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr><td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td><td>0 人</td></tr> <tr><td>② 学士の学位を有する者等</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td><td>3 人</td></tr> <tr><td>③ 高等学校教諭等経験者</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td><td>0 人</td></tr> <tr><td>④ 修士の学位又は専門職学位</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td><td>1 人</td></tr> <tr><td>⑤ その他</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td><td>0 人</td></tr> <tr><td>計</td><td></td><td>4 人</td></tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>4 人</p>							① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0 人	② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	3 人	③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人	④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1 人	⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人	計		4 人										
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0 人																																	
② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	3 人																																	
③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人																																	
④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1 人																																	
⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人																																	
計		4 人																																	

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本学は建学の理念である「美と創造の精神」の完成を目指し、豊かな情緒と個性的な想像力を身に付けた人材の育成を教育目標としている。この目標達成のために、基礎から専門に至る知識・技術を体系的に修得させる教育課程を編成する。また、業界の最新動向を継続的に把握しながら各企業で即戦力として活躍できる高度で実践的な能力を養成することを重視する。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は校長のもとに設置し、本校の教育課程や職業実践、企業連携に関する事項を検討し、意見・要望を提言する諮問機関としての役割を担う。委員会で出された意見・要望は、教務課が担当部署として具体的な検討を行う。その結果は、学科長と教務課所属長が調整・協議したうえで校長の許可を経て最終決定され、実際の学校運営に反映される。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
山田 祐照	一般社団法人日本空間デザイン協会 理事	令和7年4月1日～令和9年3月31日	①
田崎 冬樹	横浜美術大学美術学部美術デザイン学科 准教授	令和7年4月1日～令和9年3月31日	②
伊藤 庄平	株式会社シロクロ	令和7年4月1日～令和9年3月31日	③
左 知子	株式会社HASAS	令和7年4月1日～令和9年3月31日	③
樋口 誠	株式会社ネオタイト建築計画	令和7年4月1日～令和9年3月31日	③
相庭 聰	株式会社ケイ・ウノ	令和7年4月1日～令和9年3月31日	③
臼井 康祐	株式会社スーパー・ギルド	令和7年4月1日～令和9年3月31日	③
落合 三喜	山脇美術専門学校 校長(全体会委員長)	令和7年4月1日～令和9年3月31日	—
富永 文	同 ジュエリーデザイン科 科長(分科会委員長)	令和7年4月1日～令和9年3月31日	—
篠原 一郎	同 教務課 部長(ジュエリーデザイン科 講師)	令和7年4月1日～令和9年3月31日	—
桑原 有里佳	同 教務課 (ジュエリーデザイン科 助手)	令和7年4月1日～令和9年3月31日	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、

地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (9月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年9月6日 15:00～17:00

第2回 令和7年2月25日 15:00～17:00

上記の2回を実施

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

第1回

〈企業連携の成果と計画〉

- ・ケイ・ウノとの工房見学やデザイン指導を通じて、学生の業界理解を深めた。
- ・今後は、別企業の生産現場見学や生産管理講義などを予定している。

〈業界と人材育成の課題〉

- ・ジュエリー業界は人材不足で求人は増加傾向だが、採用の早期化が進み、内定辞退などで採用は難航している。
- ・企業は、継続的なモノづくりへの興味や、モノを見る評価眼(デザインの重要要素)を持つ人材を求めている。
- ・現代の学生は失敗を恐れ挑戦を避ける傾向があるため、学校は「多くの失敗と挑戦を経験」させ、専門性に伴う人格を養わせる必要がある。

また、具体的なキャリアパスを示して離職を防ぐ教育が重要である。

〈教育課程の改訂〉

- ・来年度、授業名の変更(内容に大きな変更なし)と、制作課題以外に見学や講評の時間を確保するカリキュラム改善を行う方針である。

〈その他〉11月に諏訪貿易株式会社社長の諏訪恭一氏による「宝石商の仕事」と題したセミナーを開催する予定。

第2回

〈企業連携の深化〉

- ・ケイ・ウノ、サザビーリーグ等との工房見学や生産管理の特別講義を実施し、「作るだけではない」広範で実践的な教育を目指していく。

・次年度より弁護士を非常勤講師に迎え、消費者法や知財などの法務教育を拡充する。

〈業界動向と求める人材〉

- ・業界全体で人材不足が深刻化し、インターンシップが活発化している。企業は長期的な人材育成を重視し、新卒教育に時間を割くため業務がひっ迫する課題を抱えている。

・求める人材は、「モノづくりが好き」で働く意欲があり、「給与・仕事内容・生活スタイル」の3点が合致する者。

・企業は成績、能力、人間性の3軸評価や、技術習得を給与に反映させる仕組みで、社員の意欲向上を図っている。

・学校には、学生が憧れだけでなく仕事内容や働き方を正確に理解し、入社後のギャップによる不一致を防ぐ教育が求められる。

〈教育課程の編成について〉特別講義を織り交ぜながら職業体験や就職に繋がる学習を行うことで、作るだけではない教育を目指していく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

「職業教育に係る連携授業の実施に関する内規」に基づき、以下の2点を目的とした教育を実施する。

- ① 関連分野の職業に対する勤労観の醸成および継続的な学習意欲の向上。
- ② 専門分野の実務に必要な知識、技術、技能の修得または向上。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

本授業は、以下の項目に基づき、企業等と連携して実施する。

① 事前の確認・共有

講義・実技指導の内容、および学生の学習成果を測る評価指標について、事前に学校(授業科目の担当教員)と企業担当者で協議・確認を行う。

② 授業の運営と指導

授業運営は、企業担当者と授業科目の担当教員が連携して行う。企業担当者より、専門性の高い助言や実践的な技術指導を受ける。

③ 学習成果の評価

評価は、企業担当者からの評価と助言を取り入れ、以下の項目に基づき総合的に行う。

演習・実技 :「進行チェック時における成果物の完成度」、「テーマ設定とプレゼンテーション資料の充実度・完成度」、「企画プレゼンテーションの発表内容」

講義 :「授業で学んだ内容が、レポートなどに活かされているか」、「講義で得た知識や理解が、提出物に確実に表現されているか」、

「学んだことが、レポートを通じて実践的に身についているか(修得度)」

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
レポートファイル制作・見学1、2	3. 【校外】企業内実習 (4に該当するものを除く。)	卒業生が勤務するブランドのオーダーメイド工房を見学し、デザイン画から商品化までの全工程(ウォッチのケースメイキング、ダイヤモンドのカッティング、CADオペレーション、レーザーマーキング、ワックスによる原型作成、地金部での彫金加工、刻印、石留めなど)を順に見学。ジュエリー業界の一員としての自覚を持って働く意識を芽生えさせる。また、就職活動と、就職後の勤務意識の向上を測る狙い。	株式会社ケイウノ
研究制作1、2、3	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	ジュエリー製造・販売の現場で必要となる法律について知識を深める	新田・天野法律事務所
ジュエリービジネス概論	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	制作以外の職種や業界の事情についての理解を深めるとともに、企業やジュエリー業界の一員としての自覚を持って働く意識を芽生えさせることで、高いモチベーションを持って仕事に取り組むことができる社会人の養成に寄与する。	(株)エフ・ディ・シィ・プロダクツ
ジュエリービジネス概論	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	制作以外の職種や業界の事情についての理解を深めるとともに、企業やジュエリー業界の一員としての自覚を持って働く意識を芽生えさせることで、高いモチベーションを持って仕事に取り組むことができる社会人の養成に寄与する。	株式会社サザビーリーグ エーアンドエス カンパニー

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「山脇美術専門学校教員研修内規」に則り、教員に対し現在就いている教育職又は、将来就くことが予想される教育職に係る職務の遂行に必要な知識、技能等を修得させ、その遂行に必要な教員の能力及び資質の向上を図ることを目的とする。教員に対する研修の必要性を把握するとともに、教員の自己啓発の意欲を発揮させるように配慮し、研修計画に基づく研修を実施する。

研修の参加については、職務内容や経験年数を考慮したうえで、校長が指示する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名： Japan Jewellery Fair 2024セミナー
「宝石の光学効果—光との相互作用による驚異の魅力」
連携企業等： インフォーマ マーケッツ ジャパン株式会社

期間： 令和6年8月29日(木)
対象： ジュエリーデザイン科
の教職員

内容
宝石の鑑別でも重要な、9種類の宝石の光学効果について、実際の画像を用いながらの解説と講義。
講師は、GIA Tokyo合同会社 鑑別部門(カラーストーン)マネージャー 猿渡 和子 氏。

研修名： Japan Jewellery Fair 2024セミナー
「海外の製造に学ぶ!? ジュエリーデザインと最新技術の使いこなし方」
連携企業等： 一般社団法人日本ジュエリー協会

期間： 令和6年8月30日(金)
対象： ジュエリーデザイン科
の教職員

内容
ジュエリー製造の近代化に関するプレゼンテーション。機械だけで終わらない、製造全体から考える効率的な生産の考え方について解説。海外の現状を交えながらこれからの製造ラインの効率化をCAD、造形、鋳造にターゲットを当てて考えていく。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名： 実践行動学セミナー「夢現実のための実践行動学」
連携企業等： 一般社団法人 実践行動学研究所

期間： 令和6年6月27日(木)
対象： 全教職員

内容
学生の夢の実現、目標達成に必要な心の在り方や達成の技術と技能を身に着ける。

研修名： アサーティブコミュニケーション
～自他尊重のコミュニケーション～
連携企業等： 公益財団法人東京都私学財団

期間： 令和7年1月14日(火)
対象： 全教職員

内容
様々な教育現場の教職員とグループワーク、ロールプレイングを行いアサーティブコミュニケーションを学ぶ。
アサーションの方向性、アサーション3つの表現、人間関係8つの憲法、レベルに応じた主張法など。

研修名： 文章力向上講座
連携企業等： 公益財団法人東京都私学財団

期間： 令和7年1月28日(火)
対象： 全教職員

内容
文書作成におけるさまざまなルールを学ぶ。論理的な文章をつくるステップ、伝わる文章にするテクニック、報告書の書き方トレーニング、相手に配慮するメール術など。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	ジュエリーデザイン関連のセミナー	連携企業等:	各種団体や企業が主催
期間:	令和7年8月または令和8年1月	対象:	ジュエリーデザイン科 の教職員
内容	展示会にて同時開催されるジュエリーデザインに関連する様々なセミナーの中から、学校や学生にフィードバックできる内容のセミナーに参加予定。		
研修名:	宝石ワークショップ 「宝石の装身具の見方 -自分で出来る宝石の価値判定 - 初級」	連携企業等:	諏訪貿易株式会社会長 諏訪 恒一 氏
期間:	2025年7月19日(土)・20日(日)・21日(月)	対象:	ジュエリーデザイン科 の教職員
内容	さまざまな宝石や装身具を、実際に手に取りながら、宝石の装身具の「宝石、構想、仕立て」の良し悪しと価値について学ぶ。		
研修名:	セミナー 「宝石のカットスタイルの変遷」	連携企業等:	諏訪貿易株式会社会長 諏訪 恒一 氏
期間:	2025年10月5日(日)	対象:	ジュエリーデザイン科 の教職員
内容	諏訪恒一氏は、2022年国立科学博物館特別展「宝石 地球がうみだすキセキ」を監修し、『橋本コレクション』(橋本貫志氏寄贈、国立西洋美術館所蔵)の指輪200点について宝石史年表を作成。今回のセミナーでは、諏訪氏がその年表を作成する過程で見出した「宝石のカットスタイルの変遷」について解説。		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	PSAフィードバック講習会	連携企業等:	株式会社ヒューマン・キャピタル・コンサルティング
期間:	令和7年7月下旬	対象:	全教職員
内容	PSAパーソナリティ診断を学生に実施し、診断結果をもとに自身の個性を理解し、活かし方のヒントを得る。一方で教職員は、学生指導の精度を高めるための手がかりとして活用し、学生とのより良い関係性を築く方法を学ぶ。講習後には意見交換会を行い、具体的な指導や対応方法について教授する。		
研修名:	メンタルヘルスサポート、コミュニケーション、コーチング研修など	連携企業等:	各種団体や企業が主催
期間:	令和7年4月から令和8年3月の間	対象:	全教職員
内容	コミュニケーションやメンタルヘルスケアに関する研修やセミナーに1~2回受講予定。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学生が質の高い実践的な職業教育を享受できるよう、学校運営の改善と発展を目指すため、学校が自己点検・自己評価を行う。実践的な職業教育を目的とした、自らの教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成の適切さ等について評価を行うことが目的となる。また卒業生・企業・業界団体等の学校関係者を選任し、自己評価結果についての改善に向けた専門的な助言を受け、組織的・継続的な改善を図る。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	(2)学校運営(3)事業計画(4)運営組織
(3)教育活動	(8)教育活動(9)教育方法・評価等
(4)学修成果	(10)成績評価・単位認定等(13)学習成果(14)資格・免許の取得率
(5)学生支援	(11)資格・免許取得の指導体制(16)学生支援(18)学生相談(19)学生生
(6)教育環境	(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理
(7)学生の受け入れ募集	(25)学生の募集と受け入れ
(8)財務	(28)財務(29)予算・收支計画(30)監査(31)財務情報の公開
(9)法令等の遵守	(32)関係法令・設置基準等の遵守(33)個人情報保護
(10)社会貢献・地域貢献	(36)社会貢献・地域貢献・国際交流
(11)国際交流	(36)社会貢献・地域貢献・国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者より「どのような資格・免許が取得できるが、そのためにどのような指導がなされているかを発信するとよい。」との意見をいただき、ホームページへの分かり易い表現の工夫をしたほか、学校案内などの広報媒体への積極的な掲載に努めることとした。評価の低かった施設・設備について、経年劣化に対する安全対策に努め、トイレ・階段などのユニバーサルデザイン化を検討したい。また地域貢献のために「山脇ギャラリー」の活用について検討したい。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
久保寺健郎	九段振興組合 理事	令和7年4月1日～令和10年3月31日(3年)	地域等委員
松尾貴之	株式会社スピリッツ プロデューサー	令和7年4月1日～令和10年3月31日(3年)	企業等委員
今川清信	杜陵印刷株式会社 課長	令和7年4月1日～令和10年3月31日(3年)	企業等委員
須藤加代子	会社員	令和7年4月1日～令和10年3月31日(3年)	卒業生等

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://yamawaki.ac.jp/pdf/openinfo/07gakkokankeishahyoka.pdf>

公表時期: 令和7年3月1日

(別途、以下の資料を提出)

* 学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-2

* 自己評価結果公開資料

* 学校関係者評価結果公開資料(自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書)

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教職員による学校の理念・目標に照らして自らの教育活動を評価した「自己評価」、及び「専門学校における情報提供等への取り組みに関するガイドライン」に対応した項目を公開することにより、企業等の学校関係者から有益な助言を得ることで教育の質的な向上を図る。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	1, 学校の概要、教育目標
(2)各学科等の教育	2, 教育方針と各学科の教育
(3)教職員	3, 教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	4, キャリア教育と就職支援、職業実践教育
(5)様々な教育活動・教育環境	5, さまざまな教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	6, 学生生活支援
(7)学生納付金・修学支援	7, 学費と経済的な支援
(8)学校の財務	8, 財務情報
(9)学校評価	9, 学校評価
(10)国際連携の状況	○○○○○
(11)その他	○○○○○

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://yamawaki.ac.jp/pdf/openinfo/yamawaki-basic-information.pdf>

公表時期: 令和7年10月22日

(別途、以下の資料を提出)

* 情報提供している資料

(備考)

・用紙の大きさは、日本産業規格A4とする(別紙様式1-2、2-1、2-2、3-1、3-2、4、5、6、7、8についても同じ。)。

授業科目等の概要

(美術専門学校 ジュエリーデザイン科)												
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		場所	教員	企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技		
1	○		ジュエリーデザイン1	・ジュエリーを実際に制作しながら、道具の使い方や金具、チェーンの機能や取り付け方、型紙の取り方、身体との関係を学ぶ ・彫り留めを生かしたジュエリーをデザインして仕上げる	1通	84				○ ○		○
2	○		ストーンセッティング1	・石留めの構造を学び、覆輪を作り、覆輪留めをする ・彫り留め技法（チョコ留め、ふせこみ、五光留め、ます留め、なわ留め等）を理解し、数多く練習する ・彫り留めを生かしたジュエリーをデザインして仕上げる	1通	84				○ ○		○
3	○		ジュエリー史研究	・グループでテーマに添ったジュエリー史を研究し、発表する ・グループワークを経験し、物事の調べ方や資料の作成方法、プレゼン能力を習得する ・講義によって詰め込まれる知識でなく、学生が能動的に「学ぶ」機会にする	1前	42		△ ○		○		○
4	○		ジュエリー造形1	・ジュエリー制作に必要な基礎的な技術の練習、及びジュエリー制作 ・様々な基礎的な技術を使って作品を制作する ・正確さを要する技術を習得する	1通	84				○ ○		○
6	○		日本伝統彫金1	・日本に伝統的に伝わる彫金の技法（彫り）、使用する工具、素材について学ぶ ・日本に伝統的に伝わる彫金の技法（打ち出し）、使用する工具、素材について学ぶ	1通	84				○ ○		○
7	○		グラフィック表現1	・ジュエリーデザインに必要な描写表現の基礎を学ぶ ・立体の構造理解とその表現に重きを置き、図法の基礎を学ぶ ・モチーフを観察し、ジュエリーのデザインを考案・図面化 ・デザインプロセスと図法の表現からプレゼンボードへの展開	1通	84			△ ○ ○	○ ○		○ ○
8	○		CG表現1	コンピュータを使用したレンダリング（完成予想図）の制作に必要な基礎知識を学ぶ	1通	84			○	○ ○	○ ○	
9	○		集中講義1	・七宝、宝石研磨、キャスティング、ロー型、ガラス実習、宝石学を学ぶ ・銀製スプーンの制作を通じて、型打ちや打ち延べの技法を学ぶ	1通	126		○	△ ○			○
10	○		総合学習1	授業で制作した課題についてのレポート作成、見学、授業フォロー	1通	84			○	△ ○ ○	○ ○	
11	○		研究制作1	授業課題の予習復習、自主制作、見学、就職活動準備 毎回の授業の目的を確認し、計画的に作業する	1通	84		△	○ ○			○ ○
12	○		就職講座1	・就活に関する基礎的な準備資料を早期に完成させる ・経団連の新卒採用調査1位のコミュニケーションスキルを基礎、デジタル、実践、チームビルディングの観点から学ぶ	1通	27		○ △		○		○
13	○		進級制作	進級制作として、1年間で学んだ内容の集大成となる大作に取り組む	1後	123				○ ○		○
14	○		課外授業	前期：入学式、ガイダンス、研修旅行、学生作品展 後期：山脇祭、卒業・進級制作展、卒業式など	1通	60				○ ○ △ ○		
15	○		ジュエリーデザイン2	・石座の仕組み、ジュエリーと身体との関係、ジュエリーの構造を理解しジュエリーを制作する ・進級制作として、1、2年次に学んだことの集大成となる独創的な完成度の高いジュエリーを制作する	2通	84				○ ○		○
16	○		ストーンセッティング2	・石座の仕組みを理解し、実際に制作し石留めする ・パヴェ留めの設定をし練習する、実際に作ったジュエリーに留める ・貴金属装身具製作技能検定3級試験課題リングの演習 ・進級制作として、1、2年次に学んだことの集大成となる独創的な完成度の高いジュエリーを制作する	2通	84				○ ○		○
17	○		研究制作2	授業課題の予習復習、自主制作、見学、就職活動準備	2通	84				○ ○ ○	○ ○	
18	○		ジュエリービジネス概論	・ジュエリーが顧客の手元に届くまでの一連の流れを「ビジネス」の視点で学ぶ ・与えられたテーマで、チームで協力して自主的に調べ、まとめ、発表し合う場とする	2前	42		△ ○		○		○ ○

19	○	ジュエリー造形2	・造形技法を学ぶ ・線を使い、様々な造形法、また必要に応じた治具の作り方を習得する ・効果的な加工、造形技法を用いて、各々の世界観を表現する ・チタン、真鍮の取り扱い、加工について学ぶ ・金具の機能について学ぶ	2通	84			○	○		○
20	○	日本伝統彫金2	・日本の伝統的彫金技法（彫り・象嵌）を学ぶ ・数多く練習し、技術を体得する	2通	84			○	○		○
21	○	宝飾造形	難易度の高い手編みチェーン、金具を制作する	2通	84			○	○		○
22	○	ヨーロッパ伝統彫金	古代ヨーロッパの作品を数多く見て、その制作技法を推測してみる その技法を使って、デザイン制作する	2通	84			○	○		○
23	○	レンダリング2	・プレゼンテーションに必要な、実践で求められる表現手法を開拓する ・デザインプロセスの実践を通して、オリジナリティーのある発想力を養う ・1年次のコンピュータでの制作経験を踏まえながら、更に様々な表現技法を学ぶ	2前	42			○	○		○
24	○	レンダリングCG2	・プレゼンテーションに必要な、実践で求められる表現手法を開拓する ・デザインプロセスの実践を通して、オリジナリティーのある発想力を養う ・1年次のコンピュータでの制作経験を踏まえながら、更に様々な表現技法を学ぶ	2後	42			○	○		○
25	○	オブジェ2	オブジェ制作を通じて、立体的に思考する力を養う	2前	42			○	○		○
26	○	レポートファイイル制作・見学2	・授業で制作した課題についてのレポート作成、見学、授業フォロー ・就活に役立つポートフォリオ作り、就活フォロー ・山脇祭準備	2通	84			○	△	○	○ ○
27	○	就職講座2	・就活に関する基礎的な準備資料を早期に完成させる ・自己PR、志望動機、業界職種研究、履歴書完成に向けて、自分自身の特性の理解や業界職種の知識を深める	2通	27	○	△	○			○
28	○	進級制作	進級制作として、2年間で学んだ内容の集大成となる大作に取り組む	2後	123			○	○		○
29	○	課外授業	前期：入学式、ガイダンス、研修旅行、学生作品展 後期：山脇祭、卒業・進級制作展、卒業式など	2通	60			○	○	△	○
30	○	ハイジュエリー	貴金属、宝石、ジュエリー製品の取り扱いや法規、仕入れ方法、流通を学ぶ	3前	42	○	△	○			○
31	○	ジュエリー造形3	・チェーンメイルジュエリーの制作、ティストを合わせたオリジナルクラスプを作る ・ワイヤーネックチョーカーの制作 ・ジョイントのデザイン性を考えたネックレスを制作する	3通	84			○	○		○
32	○	日本伝統彫金3	・金属を伸縮する為の技術修得、及び道具選びの修得 ・物をしっかり観察する目を養い、成形する為の技術を修得、及び色金の組み合わせを修得	3通	84			○	○		○
33	○	ストーンセッティング3	・「ティファニーセッティング」の仕組み、留め方を学ぶ ・「連座」を理解し、石座同士が接する場合の留め方を学ぶ ・全体のデザインに合ったオリジナリティーのある留め方を考える	3後	42			○	○		○
34	○	集中講義3	七宝、キャスティング、CADの高度なテクニックを学ぶ	3通	84		△	○	○		○
35	○	日本伝統彫金研究	・金具と器物の制作を通して、日本の伝統的な色がねや技法について学ぶ	3通	336			○	○		○
36	○	ジュエリー制作のための素材研究	・ジュエリー及びアクセサリー制作における造形用素材の研究をテーマとして取り組む ・各種材料の加工方法や効果的な使用方法等を研究し、各自の表現手段の幅を広げることを目的とする ・前期での成果を基に、各自が取り組む素材を用い、ジュエリー、クラフト作品の制作に取り組む	3通	336			○	○		○
37	○	コンテンポラリージュエリー	・自由な発想によるオリジナルジュエリーの制作 ・前期作品をふまえて「音をテーマにしたジュエリー」を卒業制作として作る	3通	336			○	○		○

38	○	プランディング	・ブランドや市場を研究し、ジュエリーが出来る背景を学習する ・コンセプト立案のための思考の言語化と、ビジュアルイメージの展開 ・思考とイメージの整理をし、目指すブランド像の世界観を確立させる ・市場を熟考した上で、ジュエリーをデザインする ・販売促進までを研究する(HP、SNS、DM、カタログ、ディスプレイなど)	3通	336	△	△	○	○	○	
39	○	卒業制作	卒業制作として、3年間で学んだ内容の集大成となる大作に取り組む	3後	150			○	○	○	
40	○	レポート & ファイル制作・見学・就職講座3	・授業で制作した課題についてのレポート作成、見学、授業フォロー ・就活に役立つポートフォリオ作り、就活フォロー ・山脇祭準備 「就職講座3」：各自の課題を明確にして、課題に応じた対策をとる。個人模擬面接など。	3通	168	○	○	○	○	○	○
41	○	研究制作3	授業課題の予習復習、自主制作、見学、就職活動準備	3通	168			○	○	○	○
42	○	課外授業	前期：入学式、ガイダンス、研修旅行、学生作品展 後期：山脇祭、卒業・進級制作展、卒業式など	3通	60			○	○	△	○
合計				41 科目			4158 単位 (単位時間)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：出席率が80%以上であること、課題の提出が100%であること、学年の全科目の成績が60点以上であること、学費等納付金が完済であること。	1学年の学期区分	2期
履修方法：すべての必修科目と所定の選択科目の履修	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。